

学術部おすすめ！読んでおきたい特集記事

デンタルダイヤモンド／2016. 9月号（中島副委員長 記）

○実践歯学ライブラリー“かかりつけ歯科医強化型歯科診療所ってなんだ”

（坪田有史、松島良次、中川勝洋）

＊平成 28 年の改定で「かかりつけ歯科医強化型歯科診療所」が新設されました。かなり高い施設基準を満たさなくてはいけないので、様子をみている先生も多いと思います。この特集では、「か強診」導入の社会的背景・医科薬科を含めた政府の政策などを考え、その内容・利点・欠点について詳しく記載しています。また、実際に運用してみての、今後の展望や問題点を記載しています。「か強診」を導入している・いないにかかわらず、一読しておくべきだと思いました。

○包括的歯科診療入門(21)現象と時間の視点から

咬合崩壊と咬合再構成①下顎位をどう診断し、どう求めるか？（小川 廣明）

＊歯周炎と咬合の不調和による相乗効果によって、歯列・咬合が悲惨に破壊された症例をどのように診断し、治療するかを症例で提示している。下顎臼歯部の欠損を長期放置し、咬合高径が低下し、顎関節が後方に変位した症例に対して、下顎臼歯の欠損部にインプラントとメタルテックで咬合挙上、矯正で歯牙をレベリングしアンテリアガイダンスを付与、臼歯の咬合調整と下顎の位の再評価で終了している。興味のある先生には勉強になると思います。

歯界展望／2016. 9月号（小野委員長 記）

歯界展望が今月で 1,000 号を迎えた。1946 年から 70 年になるそうだ。

○特集 コピー義歯を使った暫間吸着義歯作製法 ―患者との信頼を高める総義歯臨床

（富山県開業 山崎史晃）

＊筆者は阿部二郎先生の吸着メカニズムを踏襲しており、セミナーの講師も務められている。今回は、吸着の可否を判定し、更に患者とのコミュニケーションを向上させる目的で、旧義歯を「吸着理論に基づいた診断用義歯（暫間吸着義歯）」へ改変させる手法を紹介している。まず、従来の義歯製作手順の問題点をあげ、旧義歯改変の利点と適応について具体的に論じている。さらに下顎吸着義歯のメカニズムについても、写真や図もふんだんに使い、分かりやすく解説している。旧義歯の改変をする場合、トラブルを避ける為にコピー義歯を用いる方が安心である。コピー義歯の作り方も細かく図解している。写真を見るだけでも参考になると思う。一度ご覧ください。

ザ・クインテッセンス／2016. 9月号（岡崎副委員長 記）

○“今”知っておきたいキーワード 地域包括ケア（渡邊 裕）

＊地域包括ケアとは、高齢者が人生の最期まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるために、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体で提供する支援体制である。しかし、少子高齢化と人口減少社会による医療、介護の担い手不足が進むなかで、今後、認知症高齢者の増加や現在約 800 万人いる団塊世代が 75 歳以上になる 2025 年に向けて、各地域で住民やボランティア、民間企業などの多様な生活支援体制が構築されていくことになる。その結果、専門職としての介護人材が積極的に身体介護を中心とした中重度者のケアに特化していく流れが形成されるが、その際に地域でもっとも充実した医療資源である歯科専門職がかかわる意味はきわめて大きい。

○保健・医療・介護・福祉をつなぐための歯科からの提言～2025 年問題に対する歯科界の挑戦～九州歯科大学同窓会創立 90 周年記念シンポジウムより

＊歯科医療・口腔保健は、食べる楽しみなど QOL の保持にとどまらず、生涯にわたり、健康を創り出す潜在力を有している分野であることにわれわれは気づかなければならない(深井)。高齢者の「入れ歯」は「摂食行動にともなう高次脳機能を再発揮させる脳機能補助装置(認知症予防の脳トレ装置の可能性もあり)」との視点が、今後の歯科医療や歯科医学教育において大切になると思われる(吉野)。など各専門分野から興味深い提言がなされているが、幾つかは、地域包括ケアシステムに歯科が如何に関わっていくかについてであった。

歯科評論／2016. 9月号（居樹副委員長 記）

○特集／光学印象採得で変わる補綴歯科治療 ―口腔内スキャナーのいま

（馬場一美 田中晋平 他）

＊歯科技工の分野ではロストワックス法による精密鑄造から CAD/CAM へと変わってきています。これはまさに歯科技工のデジタル化と捉えることができます。そして次なるステップは口腔内スキャナーによる光学印象採得です。これは臨床手技のデジタル化であり、補綴歯科治療の大きな変化と捉えることができます。この変化はこれまでの変化に勝るとも劣らない合理性があり、歯科医療従事者・患者双方にとってさまざまなメリットをもたらせます。まもなく印象採得は過去のものになるのではないのでしょうか。

○すぐに臨床応用できる補綴装置撤去のコツ 1. パー類を用いた補綴装置撤去

第3回 ポスト・コア用器具の種類と使い方（熊坂知就 古川辰之 他）

＊パー類を用いた補綴装置撤去のコツ、第3回はポスト・コア用器具の種類と使い方です。ポスト・コアを除去しなければならない時、レントゲンで確認するとポストが長くしっかりと入っていて除去するのに大変な思いをしたことはありませんか。なるべく歯質を残して除去したい、歯牙を破折しないように除去したいそのために器具を選ぶヒントとなる内容です。是非参考にしてください。